

飛鳥・藤原宮発掘調査概報 4

目 次	藤原宮第8・9次および10次の調査	3
	小墾田宮推定地第2次の調査	8
	藤原京南西地区の調査	15
	川原寺の調査	18
	大官大寺跡の調査	25

飛鳥藤原宮跡調査室は、昭和48年4月12日をもって、新に飛鳥藤原宮跡発掘調査部として発足した。部長以下20名余の職員を擁し、地元の方々の協力を得て、飛鳥・藤原地区の遺跡の調査研究にあたっている。

昭和48年度は、藤原宮跡・小墾田宮推定地・川原寺跡・坂田寺跡・大官大寺跡・奥山久米寺跡・藤原京南西地区等で発掘調査を実施した。また奈良県と共同で紀寺跡の調査にもあたっている。これらの調査は、いずれも諸工事にともなう事前の緊急調査として行なったものである。

藤原宮跡では、鴨公小学校建設地（西方官衙地区）の調査を昭和47年3月から開始していたが、48年9月で全域の調査を終了した。小墾田宮推定地の調査は昭和45年に実施したことがあり、今回はその西に隣接する地区で調査したが、石組大溝を除いては前回ととくに関連する遺構は検出されなかった。川原寺の調査は整備工事にともなって行なったもので、東大門・東南院跡を確認した。坂田寺の調査は47年に引き続くものであり、現在進行中である。大官大寺の調査は、寺域の北西隅付近と推定される地区で行なったが、小範囲の調査であったため、遺構の性格等は明らかになっていない。藤原京南西地区は、厩坂寺あるいは石川精舎にかかることが予想される地域であるが、調査した地区は旧河川にあたっていた。奥山久米寺はいずれも家屋改築にともなうものであり、小範囲の調査にとどまった。

飛鳥・藤原宮発掘調査地区一覧表

49-2-20現在

遺跡・調査次数	調査地区	調査面積	調査期間	地籍地番	所有者	備考
藤原宮 8※ 9※	6AJG 6AJG	15,000 ^{m²} 1,000	48・4・1~ 48・9・30 48・10・1~ 進行中	橿原市繩手町 301-3、316-1、317- 1、318-1、319-25 327-1・2、328、329- 1・3、330 橿原市四分町 297、298、300、301	橿原市 橿原市	鴨公小学校建設地。第5・6・ 7次に引続く調査。発掘面積地 番には5次~7次をふくむ。 橿原市四分団地建設地 宮の西限の堀・溝等を確認
10北半	6AJL					
11	6AJF		49・1・28~ 進行中	橿原市醍醐町金詰 15-1	森村菊太郎	内裏外廓西限附近
繁-1	6AJK	300	48・4・2~4・20	橿原市繩手町町田 189-1・3	杉本吉男	水田を宅地造成 掘立柱穴・溝出土
繁-2	6AJB	220	48・7・11~13	橿原市高殿町 310-1、311-3	城本一雄	住宅・納屋の新築
繁-3	6AJC	30	48・8・30~31	橿原市高殿町南京殿 285	喜多正義	農小屋の改築 溝・瓦器出土
繁-4	6AJF	30	48・12・5	橿原市高殿町324	橿原市	消防用防火用水槽設置
繁-5	6AJH	30	48・12・3~ 12・16	橿原市飛驒町88	森本忠三郎	農業用水路分水槽移転工事にと もなう調査 弥生式包含層
小塙田宮 2※ 推定地	5AOH	2,300	48・5・1~ 48・10・31	明日香村大字豊浦 17、18	奈良県	県営豊浦駐車場予定地の事前調 査。昭和45年の調査に統く。
川原寺※	6BKH	2,000	48・9・6~12・15	明日香村大字川原91	国	川原寺の整備工事にともなう調 査。東大門・東南院・回廊東南 隅の確認。
坂田寺 2	5BST		49・1・16~ 進行中	明日村大字祝戸 175、176、192	国(建設省)	飛鳥国営公園祝戸地区 公園の 調査で、昭和47年に引続く
藤原京繁※ 西南隅地区	5BITS	460	48・10・3~ 48・11・13	橿原市石川町 282-1、284-1・2 285-1	かとう 不動産	宅地造成・マンション建設にと もなう事前調査。
大官大寺繁※	6AMB	640	48・11・13~ 12・22	橿原市南浦町2、3、 4、5	西井康裕	畜舎建設にともなう事前調査。 大官大寺寺域の北西隅付近
奥山久米寺 繁-1 繁-2 繁-3 繁-4	5BOQ 5BOQ 5BOQ 5BOQ	180 100 50 180	48・7・5~6 48・7・9~12 48・8・22~24 49・2・13~16	明日香村大字奥山612 〃 652 〃 24-5 〃 642	畠楠善義 池崎正勝 米川宗次 米川正之	家屋改築にともなう調査 伽藍西北隅付近 〃 僧房付近 〃 中門南側 〃 塔の東方
紀寺	6BKI		48・5・8~ 49・2	明日香村小山字キデラ 金焼	奈良県	県営明日香運動公園建設にと もなう事前調査。奈良県との共同 調査。紀寺の寺地、金堂・講堂 中門・回廊・南大門棲地等伽藍 主要部を確認した。

※印 本報告に収容

藤原宮第8・9次および10次の調査

1 藤原宮第10次北半の調査

藤原宮第10次調査は、橿原市営四分団地造成に先立って実施したもので、驚栖神社の東80m、藤原宮の西辺地区でおこない、目下発掘を継続している。

現在までに検出した主な遺構は、掘立柱建物4棟、柵2列、溝3条、土壙7ヶ所などである。調査地区西端にある南北柵Aは、宮城南門中軸線より西464mの位置にあり、藤原宮の西を限る大垣にあたる。柱穴は真南北に通っており、いずれも西側に柱抜穴がある。柱間は2.66m等間にわりつけられる。この柵列の東11.8mの位置に、幅2m、深さ0.6mで、南から北へ流れる南北溝Bがある。溝内埋土からは、完形の軒瓦、丸・平瓦が大量に出土した。掘立柱建物4棟は、いずれもこの南北溝の東で検出した。いずれも柱通りが真南北に対して東へわずかに振れている。発掘区の中央にある南北棟Dの桁行柱間は南2間分が広く、北3間分が狭い。この建物の東1.5mに、建物と柱通りのそろう南北柵Eがある。そのほかの掘立柱建物はいずれも小規模なものである。土壙には、古墳時代初期のもの1,6世紀中頃のもの1、7世紀中頃のもの3、藤原宮期のもの2がある。南北溝内の藤原宮期の土壙Cより軒が出土している。現在までのところ最古の実例であろう。なお、以上概略を述べた遺構は、弥生時代の土器包含層を掘り込んで作られている。

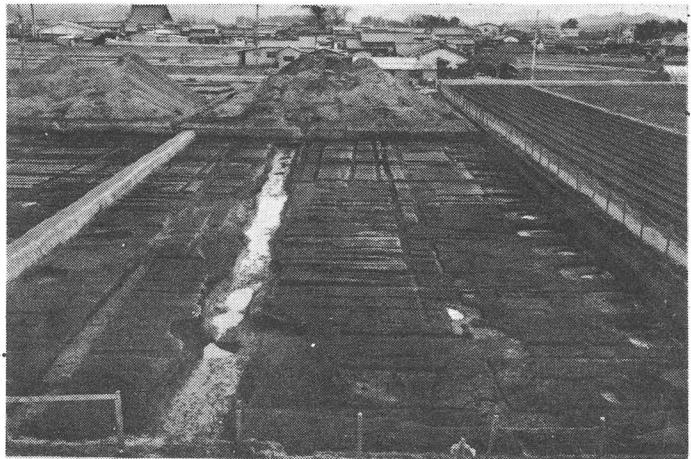
南北溝Bからあわせて4点の木簡が出土した。いずれも保存状況



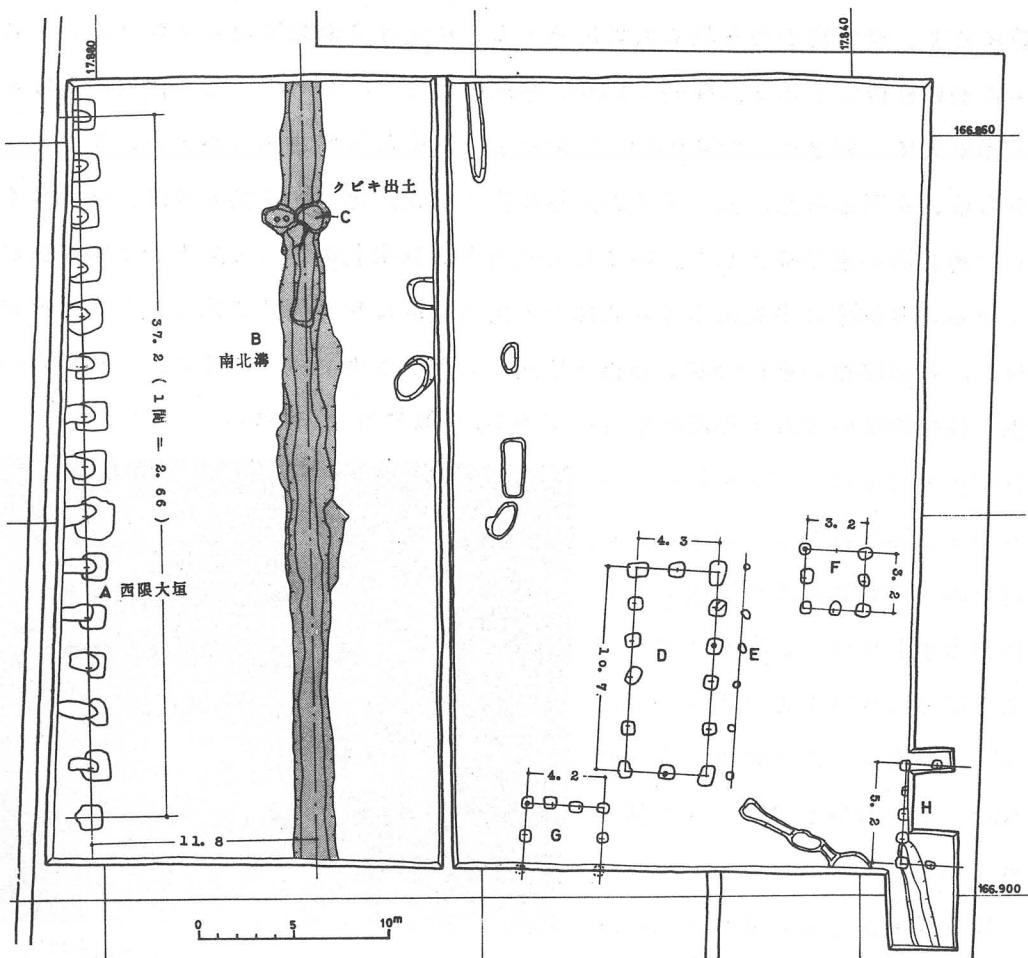
クビキ出土状況

が悪く、判読できる文字は少い。判読できる訣文は以下の通りである。

- ① 六□□……
(衛カ)
- ② ……□母□□□□□……
- ③ ……□一斗五□……
(升カ)



西面大垣と溝（北から）



第10次調査北半遺構配置図

2 藤原宮第8・9次の調査 (鴨公小学校建設地の調査)

藤原宮西方官衙の調査は、「概報3」において第5次～7次までの経過を報告した。引き続き第8・9次の調査をし、鴨公小学校移転地の調査を終了した。昭和47年春以来、1年半にわたり約1.5haの調査をし、この地域の遺構配置がほぼ明らかになった。検出した主な遺構は建物29、柵5、井戸9、土壙6と道路およびその側溝である。これらの遺構は、A期とB期の2時期にわけられる。

A期は藤原宮に関連する最も古い時期である。遺構は調査地の西南部で交差する東西および南北方向の道路SX1081・1082と、その両側の側溝がある。この溝は藤原京条坊割位置に一致するが、埋土から瓦の出土はない。道路によって四分割された東南部では、道路にそって柵SA1215・1216で囲んだ一郭がある。今回の調査で柵SA1215は4・3間分におよんだ。東端では側溝とともに削平されていて、検出できなかつたが、さらに東方に延長するものであろう。柵の内側では、小規模の建物が6棟、道路をへだてた北側でも建物が11棟ある。なかには、建物が3棟重複していて、A期のなかで建てかえのあったことを示している。建物群のなかには、小さな倉庫とみられる総柱建物を3棟検出した。この時期の建物配置は、まばらで特に計画性はみられない。

B期の建物は、道路を廃し、側溝を埋めたてて建設された。今回の第8・9次の調査では、この時期の遺構は検出しなかつた。しかし、前回までの調査で述べたように、調査地の西半を中心として桁行18間と20間の大規模な建物が4棟あった。その配置は、北に東西棟をおき、その南の両側、つまり、西に2棟、東に1棟の建物を配している。建物に囲まれた中央に大きな空間がある。さらに、今回の調査地に、B期の遺構が無かつたことは、調査地の東半部に広大な空間があったことを示す。平城宮・平安宮の西辺地域は馬寮に該当するが、B期の大規模な建物の計画的配置は、官衙の性格と関連するものかもしれない。

従来、未調査であった藤原宮の官衙について、遺構の配置が次第に明らかになってきた。B期が藤原宮の整備された時期の遺構であり、A期は藤原宮造営当初の姿を示す遺構がふくまれていよう。